

令和3年6月23日

令和3年度病害虫防除技術情報（第4号）

和歌山県農作物病害虫防除所

カンキツ灰色かび病、黒点病、そうか病の発生状況について

5月の多雨により6月時点の灰色かび病、黒点病およびそうか病の発病果（葉）率が平年に比べて多くなっています。黒点病とそうか病は今後も発生が増加するため、基本的な防除対策を徹底しましょう。

1. 調査地域：県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）
2. 調査時期：6月上～中旬
3. 発生時期（果実）
 - 1) 灰色かび病：5月～6月
 - 2) 黒点病：5月下旬～10月
 - 3) そうか病：5月下旬～8月上旬
4. 発生状況
 - 1) 灰色かび病の発生ほ場率は23%（平年15%）、発病果率は1.5%（平年0.6%）でした（図1）。
 - 2) 黒点病の発生ほ場率は22%（平年12%）、発病果率は4.7%（平年1.3%）でした（図1）。
 - 3) そうか病の発生ほ場率は6%（平年4%）、発病葉率は1.3%（平年0.7%）でした（図1）。
5. 防除対策
 - 1) 灰色かび病
感染時期を過ぎているため、薬剤防除は必要ありません。発病果実は摘果の際に除去しましょう。
 - 2) 黒点病
5月下旬から8月下旬にかけてマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤を散布します（表1）。散布後の累積降水量が200～250mmとなった時点または1か月を経過した時点のどちらかの早いタイミングで追加散布を行います。詳しくは5月21日発表の令和3年度病害虫防除技術情報（第2号）を参照してください。
 - 3) そうか病
発生が問題となるのは主にウンシュウミカンです。果実での発生を防ぐためには7月下旬まで感染を抑える必要があります。葉や果実に発生が認められるほ場ではマンゼブ水和剤（希釈倍数：400倍、適用作物：みかん）を用いて黒点病との同時防除を行うと効率的です（表1）。
 - 4) そうか病は発病枝葉、黒点病はカンキツの枯れ枝が伝染源です。日常管理の中でこれらの伝染源を見つけたら、せん除してほ場外に持ち出すように心がけましょう。

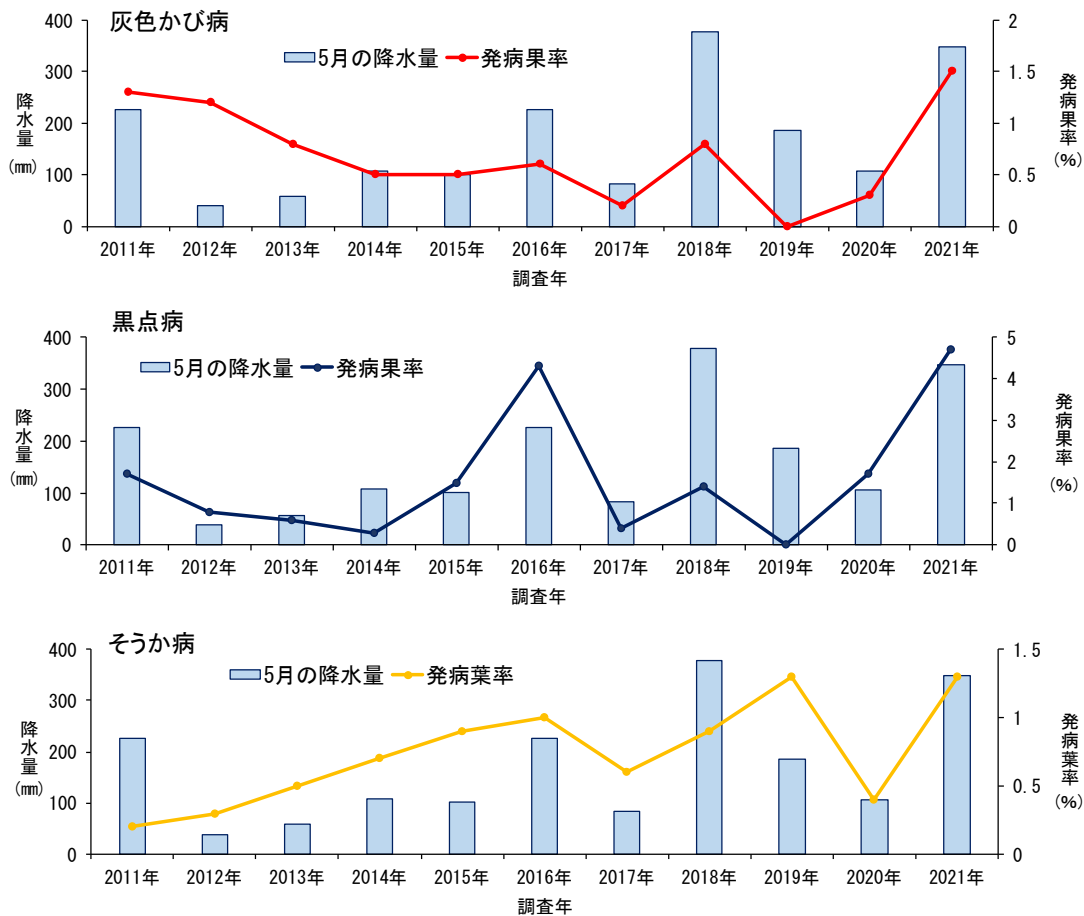


図1 灰色かび病、黒点病、そうか病の6月の発病果(葉)率と5月の降水量

注) 灰色かび病、黒点病は発病果率、そうか病は発病葉率

海南市(下津町)～田辺市のカンキツを植栽する63～65ほ場で6月中旬頃に30果(葉)／ほ場を調査

2021年の調査日は6月9日、11日

降水量は果樹試験場内設置の気象観測装置により観測

表1 マンゼブ水和剤およびマンネブ水和剤の使用基準

農薬の種類	農薬の名称	適用病害虫名	作物名	希釈倍数	使用時期	使用回数
マンゼブ水和剤	ジマンダイセン水和剤 または ペンコゼブ水和剤	そうか病	みかん	400倍	収穫30日前まで	4回以内
		黒点病	かんきつ (みかんを除く)	600～800倍		
マンネブ水和剤	エムダイファー水和剤	黒点病	みかん	600～800倍	収穫60日前まで	2回以内
			かんきつ (みかんを除く)	600～800倍	収穫90日前まで	

和歌山県農作物病虫害防除所(有田川駐在)
電話：0737(52)4320